

美学・西洋美術史専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時
美学特論 I	身体と美学:メルロー・ポンティの芸術論からシュミッツの雰囲気論へ	2	MARINUCCI LORENZ	後期 水曜日 2講時
美学・西洋美術史特論 I	美術と魔術の出会い:イタリア・ルネサンスの世界	2	足達 薫	前期 月曜日 4講時
美学・西洋美術史特論 II	美術で笑う:イタリア・ルネサンスの世界	2	足達 薫	後期 月曜日 4講時
美学・西洋美術史研究演習 I	西洋美術研究(基本編)	2	足達 薫	前期 金曜日 5講時
美学・西洋美術史研究演習 II	西洋美術研究(発展編)	2	足達 薫	後期 金曜日 5講時
美学研究演習 I	「笑」の問題。滑稽とアイロニーの美学	2	MARINUCCI LORENZ	前期 木曜日 5講時

科目名：美学特論 I / Aesthetics (Advanced Lecture I)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LM23206, 科目ナンバリング：LIH-ART608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：身体と美学：メルロー・ポンティの芸術論からシュミットの雰囲気論へ
2. Course Title (授業題目)：The Aesthetics and the Body: From the theory of art in Merleau Ponty to Schmitz' s Atmospheres
3. 授業の目的と概要：二十世紀の哲学においては、人間の身体性 (embodiment) は色々考えなおされて、特にフッサールの開始した現象学派においては身体は大きな問題として見做られてきた。知覚も感情も身体的なものとして認めたら、芸術の鑑賞と創作にとっても身体は大事なものになった。M. Merleau-Ponty と H. Schmitz の芸術論が根本的に違いますが、両方の思想においては身体は根本的な役割を果たす。現象学へ入門して、この著者の美術論を紹介する。
4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In 20th century philosophy, human embodiment has been thoroughly rethought, especially in the phenomenological line of philosophy inaugurated by Husserl. Recognizing the body as a site of both perception and emotion, involved in both the production and the appreciation of art, made it extremely important for this approach. The analysis of embodiment of M. Merleau-Ponty and Hermann Schmitz, two major phenomenologists, differs significantly, but in both authors the body plays a central role. After introducing the general outlines of phenomenology, we will explore the theory of art in these two authors.
5. 学習の到達目標：現象学派の基礎的な知識を得て、その方法を美学・美術論の色々な問題に適用すること
6. Learning Goals (学修の到達目標)：Acquiring a basic knowledge of phenomenology, and applying it to problems of aesthetics and art history.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. 美学というのは何ですか。
 2. フッサールと現象学の歴史
 3. メルロー・ポンティの現象学
 4. 「知覚の現象学」
 5. 「知覚の現象学」2
 6. メルロー・ポンティの絵画論「セザンヌ論」1
 7. メルロー・ポンティの絵画論「眼と精神」
 8. メルロー・ポンティの絵画論「眼と精神」2
 9. H. Schmitz の身体論「哲学体系」
 10. H. Schmitz の雰囲気論1
 11. H. Schmitz の雰囲気論2 ・G. Bohme との議論
 12. H. Schmitz の雰囲気論3 芸術論
 13. 現代現象学と身体論
 14. 現代現象学と身体論 2
 15. 試験
8. 成績評価方法：

筆記試験 (100)
9. 教科書および参考書：

全ての資料はスライドでされる。

参照書として

M. Merleau Ponty 「知覚の現象学」「眼と精神」

「シュミット現象学の根本問題：身体と感情からの思索」 / 梶谷真司著
10. 授業時間外学習：無
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：美学・西洋美術史特論 I / Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Lecture I)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM11405, 科目ナンバリング：LIH-ART609J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術と魔術の出会い：イタリア・ルネサンスの世界
2. Course Title (授業題目)：Art Meets Magic: The World of the Italian Renaissance
3. 授業の目的と概要：現代の美術や写真において、現実と虚構、自然と技術のあいだの境界線を揺らがせるような作品をしばしば「魔術的」と呼ぶことがあります。しかし、美術と魔術の相関関係はすでに古代において発見されていたものであり、初期近代にかけて美術と魔術（そして科学）は、自然を操作する人為的技芸として本質的レベルで交錯しながら発展しました。この授業では、特にイタリア・ルネサンスの時代の美術に注目して、美術と魔術の共鳴現象を具体的な作品や作家の事例の分析を通じて、現代では忘れられがちな美術の一側面を解説します。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In contemporary art and photography, we often refer to works of art that shake the boundaries between reality and fiction, nature and technology as "magical. However, the correlation between art and magic was already discovered in ancient times, and in the early modern period, art and magic (and science) developed as artificial arts that manipulate nature, intermingling at an essential level. In this class, we will focus on the Italian Renaissance in particular, and through the analysis of specific works and examples of artists, we will explain aspects of art that are often forgotten in the modern world.
5. 学習の到達目標：美術作品および作家を歴史的な脈と照らし合わせて分析する問の立て方および分析の手順を理解する。古代から初期近代のイタリアにおける美術の展開について理解を深める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understanding how to formulate questions and procedures for analyzing works of art and artists in relation to their historical contexts.
Understanding of the development of art in Italy from ancient times to the early modern period.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1：プロローグ——生きている彫像？
 - 2：美術と魔術の共鳴現象——古代からルネサンスへ
 - 3：同時代の言説における美術と魔術
 - 4：イメージ魔術と肖像画 (1)
 - 5：イメージ魔術と肖像画 (2)
 - 6：絵画と暗号 (1)
 - 7：絵画と暗号 (2)
 - 8：怪物の創造 (1)
 - 9：怪物の創造 (2)
 - 10：絵画と記憶術 (1)
 - 11：絵画と記憶術 (2)
 - 12：絵画と鏡魔術 (1)
 - 13：絵画と鏡魔術 (2)
 - 14：絵画と呪い
 - 15：エピローグ——絵画と錬金術(註1：資料作成の過程で発見した事例に基づいて予定や各回のテーマを入れ替えたり修正したりすることがあります)
(註2：この授業では、今から見れば差別的だったりエロティックであったりする作品や描写がしばしば取り上げられます。特に、女性と男性の露骨な裸体や性的部位が現れる点について、受講する場合はご了承ください)
8. 成績評価方法：

毎回の授業でのコメントアンケート（方式は考え中。授業で示します）および全体を通じたまとめミニレポートを総合して評価します。
9. 教科書および参考書：

授業で指示します。
10. 授業時間外学習：配布資料をヒントにしながら、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：美学・西洋美術史特論Ⅱ／ Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Lecture I)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM21405, 科目ナンバリング：LIH-ART610J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：美術で笑う：イタリア・ルネサンスの世界
2. Course Title (授業題目)：Laughing at Art: The World of the Italian Renaissance
3. 授業の目的と概要：美術という日本語に含まれた「美」という言葉は、しばしば、絵画や彫刻が美がかりでなく、もっと多様な感覚を生み出すという事実を忘れさせてしまいます。しかし、古代から現代まで、絵画や彫刻は笑いをも生み出してきました。この授業では、イタリア・ルネサンス美術を素材にして、視覚的ユーモアがいかにして生起していったかを具体的な作品を通じて理解します。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The word "beauty" in the Japanese word "art" often makes us forget the fact that paintings and sculptures create not only beauty but also more diverse senses. However, from ancient times to the present, painting and sculpture have also produced laughter. In this class, we will look at Italian Renaissance art to understand how visual humor emerged through specific works.
5. 学習の到達目標：美術作品を歴史的な脈に位置づけて分析する視点と方法を理解する。
15～16 世紀イタリアの興味深い美術作品についての知識を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Understand the perspectives and methods of analyzing works of art by placing them in historical contexts.
To understand the flow of major works of Italian art in the 15th and 16th centuries.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1：プロローグ——イメージで笑わせるためのいくつかの例
 - 2：ルネサンス文化における笑い
 - 3：笑わせるためのいくつかの方法——アリストテレス『詩学』を起点として
 - 4：エロス (1)
 - 5：エロス (2)
 - 6：パロディ (1)
 - 7：パロディ (2)
 - 8：逆転 (1)
 - 9：逆転 (2)
 - 10：連想 (1)
 - 11：連想 (2)
 - 12：皮肉 (1)
 - 13：皮肉 (2)
 - 14：誇張 (1)
 - 15：誇張 (2)(注 1：資料作成の過程で発見した事例に基づいて予定や各回のテーマを入れ替えたり修正したりすることがあります)
(注 2：この授業では、今から見れば差別的だったりエロティックであったりする作品や描写がしばしば取り上げられます。特に、女性と男性の露骨な裸体や性的部位が現れる点について、受講する場合はご了承ください)
8. 成績評価方法：

毎回の授業でのコメントアンケート (方式は考え中。授業で示します) および全体を通じたまとめミニレポートを総合して評価します。
9. 教科書および参考書：

授業で指示します。
10. 授業時間外学習：配布資料をヒントにしなが、授業で取り上げた名作や問題作をインターネットや画集で見直すと、記憶と理解が深まりますのでおすすめです。
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：

科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅰ / Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar I)

曜日・講時：前期 金曜日 5講時

セメスター：単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM15504, 科目ナンバリング：LIH-ART612J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美術研究（基本編）
2. Course Title (授業題目)：Research on Western Art (Basic Course)
3. 授業の目的と概要：古代から現代までの西洋美術史を対象にして、英語の研究論文を読解しながら、作品や作家についての「問い」を立てて調査および分析を行い、先行研究を踏まえた発表を行います。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：While reading English research papers on the history of Western art from ancient times to the present, we will raise 'questions' about works and writers, conduct research and analysis, and make presentations based on previous research.
5. 学習の到達目標：西洋美術に関する基本的な方法と用語を習得し、作品の分析と「問い」の設定（立論）、研究発表の方法を理解すること。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To master the basic methods and terms related to Western art, and to understand how to analyze works, set 'questions' (arguments), and present research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1：ガイダンス（1）研究の目的とこれからの予定
 - 2：ガイダンス 2）「問い」をいかに立て、先行研究に向き合うか
 - 3：発表と議論
 - 4：発表と議論
 - 5：発表と議論
 - 6：発表と議論
 - 7：発表と議論
 - 8：発表と議論
 - 9：発表と議論
 - 10：発表と議論
 - 11：発表と議論
 - 12：発表と議論
 - 13：発表と議論
 - 14：発表と議論
 - 15：発表と議論

（註：発表のための準備および文献調査のために順番を入れ替えることがあります）
8. 成績評価方法：

発表の到達度および授業での議論への参加度を総合して評価します。
9. 教科書および参考書：

読解する英語の研究論文は授業の中で決定し、配布（またはダウンロード先を指示）します。
10. 授業時間外学習：発表者は先行研究の調査、読解、翻訳（全訳）、発表のための資料作成を行います。受講生はあらかじめ授業で取り上げられる主な作家や作品について各自で調査し、基本的な理解を深めておきます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：美学・西洋美術史研究演習Ⅱ／Aesthetics and History of European Fine Arts (Advanced Seminar II)

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

セメスター：単位数：2

担当教員：足達 薫

コード：LM25504, 科目ナンバリング：LIH-ART613J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：西洋美術研究（発展編）
2. Course Title (授業題目)：Research on Western Art (Developmental Course)
3. 授業の目的と概要：古代から現代までの西洋美術史を対象にして、英語の研究論文を読解しながら、作品や作家についての「問い」を立てて調査および分析を行い、先行研究を踏まえた発表を行います。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：While reading English research papers on the history of Western art from ancient times to the present, we will raise 'questions' about works and writers, conduct research and analysis, and make presentations based on previous research.
5. 学習の到達目標：西洋美術に関する基本的な方法と用語を習得し、作品の分析と「問い」の設定（立論）、研究発表の方法を理解すること。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To master the basic methods and terms related to Western art, and to understand how to analyze works, set 'questions' (arguments), and present research.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1：ガイダンス（1）研究の目的とこれからの予定
 - 2：ガイダンス 2）「問い」をいかに立て、先行研究に向き合うか
 - 3：発表と議論
 - 4：発表と議論
 - 5：発表と議論
 - 6：発表と議論
 - 7：発表と議論
 - 8：発表と議論
 - 9：発表と議論
 - 10：発表と議論
 - 11：発表と議論
 - 12：発表と議論
 - 13：発表と議論
 - 14：発表と議論
 - 15：発表と議論

（註：発表のための準備および文献調査のために順番を入れ替えることがあります）
8. 成績評価方法：

発表の到達度および授業での議論への参加度を総合して評価します。
9. 教科書および参考書：

読解する英語の研究論文は授業の中で決定し、配布（またはダウンロード先を指示）します。
10. 授業時間外学習：発表者は先行研究の調査、読解、翻訳（全訳）、発表のための資料作成を行います。受講生はあらかじめ授業で取り上げられる主な作家や作品について各自で調査し、基本的な理解を深めておきます。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：美学研究演習 I / Aesthetics (Advanced Seminar I)

曜日・講時：前期 木曜日 5 講時

セメスター：単位数：2

担当教員：MARINUCCI LORENZ

コード：LM14501, 科目ナンバリング：LIH-ART614J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：「笑」の問題。滑稽とアイロニーの美学

2. Course Title (授業題目)：The problem of Laughter. Aesthetics of Comic and Irony

3. 授業の目的と概要：西洋美術史・美学史においては、「美」と「崇高」とらべれば、「滑稽」(コミック)と笑いはあまり高く評価されていなかった。しかし、「笑」と「美」はどのような関係をもっているのかという問題は、意外に深いです。色々な資料を参照しながら、学生の日常的な笑いの体験を出発点とし、笑い、コミック、アイロニーの美学を探検する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In the history of Western Art and Aesthetics, in comparison to the ideals of beauty and sublime, the "comic" and laughter have received very little attention. And yet, the connection between "beauty" and "laughter" can be a surprisingly complex problem. Referring to several materials, and beginning from the daily experience of laughter of the students, we will explore the aesthetics of comic and irony.

5. 学習の到達目標：滑稽とアイロニーの美的な範疇を理解し、美術鑑賞と日常的なコンテキストでそれを解釈することである。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To comprehend conceptually the categories of the comic and of irony, and to interpret them both within artistic appreciation and in daily contexts.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 笑いの問題：入門と「笑い日記」

2 笑いの問題 Plessner

3 ベルクソンの笑い論

4 笑いの現象学

5 コミックの範疇

6 Vischer と大西の滑稽論

7 作品としてのカリカチュア： Gombrich

8 コミックな美術：作品分析

9 7 コミックな美術：作品分析

10 アイロニーの美学：古代から

11 ロマンチック派のアイロニー論

12 ポストモダニズムのアイロニー

13 東洋の精神的な笑い：禅と見立て

14 発表

15 発表

8. 成績評価方法：

レポートと授業中の発表

9. 教科書および参考書：

全ての資料は pdf で提供される。そのうちには

H. プレスナー「笑い泣きの人間学」

H. ベルクソン「笑い」

大西「美学」(滑稽)

10. 授業時間外学習：All the materials will be shared in pdf. Among them there will be sections of

H. Plessner "Laughing and Crying"

H. Bergson "On laughing"

Onishi "Bigaku" (sections on the comic)

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：